

# 令和4年度 千葉県公立高等学校入学者選抜に関する協議会（第3回）【概要】

令和4年11月11日（金）

午後1時30分から午後3時30分まで

Q i b a l l（きぼーる）13階

千葉市中央保健福祉センター 特別会議室

## 1 出席委員（敬称略・名簿順）

佐藤 智司、谷口 和巳、永島 克彦、篠木 賢正、本宮 照久、櫻井 比呂樹、  
三浦 明久、佐久間 勝彦、小熊 隆（会長）、石川 和之（副会長）、磯野 和美、  
濱詰 大介

## 2 次第

(1) 開会のことば

(2) 県教育委員会挨拶

(3) 報告

① 令和4年度千葉県公立高等学校入学者選抜に関する協議会（第2回）の概要について

(4) 協議

① 令和6年度千葉県公立高等学校入学者選抜日程案について

② 現行の千葉県公立高等学校入学者選抜の課題について

③ その他

(5) 閉会のことば

## 3 協議内容

① 令和6年度千葉県公立高等学校入学者選抜日程案について

- ・中学校の立場としては、B'案でお願いしたい。理由は、2点ある。1点目は、本検査前日が課業日であるということ。この時期には、インフルエンザやコロナがあると考えられる上、十分に生徒への事前指導ができる観点から、本検査の前日に課業日を1日入れてほしい。また、もう1点は、本検査と追検査の間が空いているので、本検査を受検できなかった生徒が、追検査までに回復する期間が設けられることから、中学校としては、B'案でお願いしたい。
- ・中学校側は子供の視点で考えている。教職員にとって試験は毎年あるものだが、受検生にとっては、一度きりのものとなる。前日は、何かあったときに対応できる課業日であり、体調不良の受検者にとって本検査から追検査までの期間があるB'案でお願いしたい。
- ・公立の高校からの意見としては、B'案。理由は2つあり、1つは、やはり試験前日が平日であること。休日を挟むと不測の事態に対応できないことが多いため、前日は課業日の方がいい。また、B案とB'案の比較をすると、採点日の確保を考えると、B'案がよい。

- ・試験日の前日は準備のため勤務日で、発表までタイトにならないほうが良いことを考えて、結論はB’。
- ・6ページの他県の過去入試のデータを2年間だけ載せるのは不十分だと思う。過去5年間は推移をみるために必要ではないか。
- ・もし、土日に試験を行った際の振替休日は、入試の前後に取れるようにするとよいのではないか。
- ・入試の日程を毎年変えるということには納得できない。
- ・私立高校は日付を固定し、土日開催の場合には、月曜日に振替休日にして、働き方改革にきちんと対応している。
- ・様々な準備を考えると、A案かB案が良いかと。C案は準備期間が短い。これがベストという案はない。
- ・C案はないと思っている。防犯の面で、土日に何かあった場合のことを考えると、C案はリスクがある。
- ・A案、B案に関しては、試験の次の日は検討や採点があるので、休みを入れるのは難しいと感じることから、B案が良い。B案とB’案については、学校によって意見が分かれると思われるので、これについては高校や中学校に委ねる。
- ・中学校、高等学校に共通した意見であれば尊重したい。
- ・土日の件については、公共交通機関に関して、都市部であれば休日でも学校までバス等で行ける。郡部等では、通学時間帯にバスを設定してもらっていることもあり、休日は運休というところもあると聞いている。
- ・日程案に関しては、保護者の意見として、やはりC案の日曜日の次の日が検査日であると準備等々も不安である。試験前日に先生方から指導をいただき、準備等々も含め、検査前日が平日である方が少し安心である。また、本検査から追検査までに時間があると、体調不良への対応もできるので、保護者としては安心である。
- ・結論から申し上げますと、BもしくはB’案が良い。B’案について、休日明けに発表することで、土日に誰かが勤務をすることになるのではないかと。結局、振替や代休の問題になるため、入試事務全体に関して県教委の方で、配慮すべき検討事項として考えていかなければいけない。
- ・他の委員からあった、曜日を固定することについては、教育委員会として検討すべき。高校の先生方の働き方、入試の業務をするための検討事項はまだ残っているのではないかと。
- ・B案かB’案であろうということで、地域の中学校の先生方と議論し、結論はB’案となった。本検査から追検査までの間に病気にかかったとき際の回復する時間が確保できる。それから、高等学校側の採点処理を慎重に行うための時間も確保できることから、B’案が良い。
- ・A’案とB’案の違いについて、発表日が1日ずれており、発表後、合格者に対して説明会を開いたりする必要があり、その日程を確保しようとする、発表を1日でも早くしたいということで、B’案の方が良い。

② 現行の千葉県公立高等学校入学者選抜の課題について

- ・資料6の2段階の選抜で、学力検査を重視するという選抜の方法を取っているが、なぜ合格者の下位20%を学力重視とするのかが分からないので教えてほしい。更に、2段階の選抜の学力検査の得点を1.5倍することについて、最初から1.5倍の基準でやれば1回で済むと考えられる。なぜそうせずに、わざわざ2回目にそのように行うのか、結果は変わらないように思う。理解できないので、これについても教えてほしい。

→1段階目の選抜では学力検査に係数をかけることはできない。理数科や国際科で、傾斜配点というものがあるが、全体に係数をかけることは1段階目の選抜では認められていない。

- ・学力検査以外ではどうか。

→1段階目では、調査書だけは0.5から2の間の係数をかけることができるが、それ以外の検査等に係数をかけられるのは、2段階目からとなっている。

- ・2段階の選抜が経年的に増えていることから、1段階で決まることに何か不都合があつて、下位の20%で入った方たちに学力的についてこられない等の理由があり、2段階目の選抜では学力が高い方を取りたいがために2段階の選抜を行うのか。シミュレーション等をしたうえで設定しているのか。

→学校で定めているため、ねらいについては一概には申し上げられないが、学校の特色を出すために、係数等を設定している。

- ・各高校は成績で学力重視を本来したいのだが、調査書の配点が高すぎるため、それによって何か不都合があるようにも捉えられるが、そのように受け取ってよろしいか。

→k4以外に学校設定検査等にも係数がつけられ、学校によって重視する内容を変えることができることから、2段階の選抜は必ずしも学力を重視するというねらいのものではない。

- ・2段階の選抜でなくとも、最初から各校で特色が出せる選抜方法ができれば1回で行えるのではないか。

- ・公平性を保てるように中学校の先生方が工夫をしてきたこともあるので、子供たちの努力が無駄にならないような形で、高校も入試で学校の特色を出せるように、学力だけでなく、内容をアナウンスし、子供たちが選択できる環境であればよい。

- ・今後、インターネットの出願については前向きに進め、用紙の提出にも柔軟に対応してほしい。

- ・2段階の選抜の中でできないことの規定が明確にならないことや、特色化といっている部分の何が特色なのかについても明確になっていない。資料からは、数字だけを追いかけているようになってしまうことが否めないと感じるため、この点についてはもう一度検討した方がよい。

- ・「特色」について、コロナ禍で3年間止まっていた部分として、私学は学校の「特色」としてオンラインを行う等の努力をし、生徒にアピールしていた。公立高校も学校の「特色」を子供たちや保護者に伝えていく場がもっとあった方が良かったのではないかと、という思いがある。

- ・資料7の5にある標準値95の廃止について、高校と中学校とで差があるのは当然で、入試の中でうまく反映されていないのではないかと。地域などで基準に差があるのではないかとと思われるので、これについては今後、検証をしていく必要がある。

- ・中学校は、評価の観点の3観点に変わり、評定をつけている。現2年生は、入学当時から3観点で評定を出している。来年、初めて3観点による3年間の評定が出ることから、評定について、ある程度公平な数字が県内全般で出てくるのかどうか。標準値95があった頃は、各学校で95が基準になっていた部分がある。研修等、中学校側は努力をしているが、評定のばらつきが出てくることを懸念している。
- ・2段階の選抜について、現在15校となっているが、その学校を受けない地域の中学校にとっては保護者を含め、あまり関心をもっていない。地域によって理解度が違うのではないかと。教職員自身が理解していない、保護者、生徒もわからない、となるのではないかと。今後、2段階の選抜が広がっていくのであれば、共通理解をしていかなければならないのではないかと。今後、2段階の選抜について、中学校側が勉強をしていくべきではないかと思っている。
- ・評定合計の標準値95の件については、中学校として、このようにしていこうという形が出てこないため、更に研修を行い、より精度の高いものにしていかなくてはならない。
- ・2段階の選抜については、私の中学校から多くの生徒が志願する学校が15校の中に含まれているが、中学校の職員の入れ替わりが激しいこともあり、若手の職員は制度を含め十分理解していない。2段階の選抜、公立、私立も含めて、今後、入試制度については、学校や、近隣の中学校を含めた地域での研修をする必要がある。
- ・いい入試制度にしようとか、特色のある入学選抜を追い求めていく姿勢はいいことだとは思いますが、ころころと入試制度を変えるのは、受検生の立場からすると、入試に取組みにくくなるのではないかと。一度、制度や仕組みを変更した際は、数年間変更しない方針にしないと受検する立場からすると不安な面があるのではないかと。
- ・今の若者は、積極性や自尊心、自己主張がないなど、これから日本を背負っていく人材として心もとないと感じている。自分で考え、自ら課題を見出して、解決策を探れるような自主性があり自己主張ができるプレゼン能力のある生徒を育てていくことを目的とした入試制度や入試内容に見直しをすることが、これからあるべき入試の在り方ではないかと思う。
- ・資料6より、スクールポリシーについて、文科省よりスクールポリシーを明確に公表せよということについて、期待する生徒像、入学して欲しい生徒、これはアドミッションポリシーというもので、大学では3つのポリシーを明確にしている。県立千葉高等学校のアドミッションポリシーは、基礎・基本を身につけ、思考力・応用力に優れていること。これは1段階であれ、2段階であれ、そこで数値化できる。しかし、幅広く高い向上心を持ち自主的精神に富んでいるかどうかは、面談等をしないとわからない。しかし、4の選抜方法のところには、どのような面接かの記載はない。全体の20%、30%は学力重視でなく、これでいくべきだということが抜けているのではないかと。
- ・12ページの木更津高校の1の方は、学習成績が優秀な者は、調査書でわかるであろう。しかし、高校生活全般にわたって積極的に取り組み、自ら高めようという意欲もあるかどうか。これは面接しないとわからない。面接の内容が明確にならないと、アドミッションポリシーを明確にしろという文科省の打ち出しに答えていないことから、このことを指導しないといけないのではないかと。

- ・16ページの2のところの公立高校の校長の約38%、保護者の31%が否定的な回答であったのはどういう理由からか。こういうところで私立に取られたということがあるようだが、本当にそうなのか。それより、4の公立、私立、どちらの高校に入学した1年生も80%、保護者の75%は、入試を一本化し2月の下旬に行うことについて、進路選択に影響していませんと出ているが、公立の中学校長91%が影響したと答えている。大きなずれがみられる。入学した生徒は、入試の時期については影響していませんと述べているわけだから、もう少し、中学生に対する信頼を持って、入試制度を考えるべきである。
- ・アドミッションポリシーについては、公表し、それに沿った選抜を行うということで、重要になってきたと自覚している。制度上、それを反映させるために、ある程度、学力検査の得点と調査書、学校で実施する検査の幅が許されている。これが、アドミッションポリシーを公平に反映できる1つの手段である。そして、ボーダーの20%で、さらに反映させるためのものが、2段階の選抜という制度である。
- ・公立高校で数名の校長からは、1段階目で十分に学校の特徴は反映できたため2段階の選抜は行わなかったと聞いている。さらに、もっと反映させたい場合、2段階の選抜を実施するというように捉えている。
- ・資料から2月上旬から中旬の入試を、多くの公立高等学校長が希望していることについて、3月まで発表が入り込むと、発表の日在校生の定期試験を実施し、その後すぐ卒業式となり、3月の日程が随分きつくなる。2月にできるだけ選抜を行い、中学校3年生で、私学に合格した生徒、公立に合格した生徒たちが、中学の卒業式までの間に学習のまとめをやる時間も確保でき、高等学校も2月の早い時期に入試を行い、入学生を迎える準備と在校生の卒業を迎える準備期間を確保したいということが、アンケートの数字に反映されているのではないか。
- ・評定の95については、中学校側は絶対評価で評価し、高校側の方は相対評価として使うというところで差に出ているので、このずれをどのように最小限に留めるかが課題である。
- ・「学力の高い方をできるだけ取りたい。」となると、特色が1つとなる。それに対して、2段階の選抜で、学校設定検査や調査書についての点数をアップすれば、学力が高い層と、学力は多少劣っていても部活等の実績を持っている生徒を取ることができる。そういう意味では、1つの特色で行うのか、2つの特色で行うのかを選択できるのが2段階の特色である。
- ・高校入試という回数も限られた中で、2段階の選抜で特色を出しているのだろうが、既に実施している学校を中心に、入学した生徒の成績状況などがどのようになっているのか。また、評価の観点も、今の高校1年生から変わっており、成績が上位であった者、下位であった者の差は実際どうなっているのかを見た上で、それが結果として特色につながるのではないか。また、それが逆に中学校の皆様方へ知らせるものになる。
- ・大学も同様で、推薦入試、総合型選抜、そして学校推薦型選抜、一般選抜を9月から行っている中で、文科省の方からも多様性のある入試ということで、遠方からの受検等、私たちが考えていなかった事例が出ている。人数も日数も限られている高校入試での知恵を出すのは、非常に大変である。

- ・県という単位で考えると、やはりエリアも広く、各学校の差もある中で、1つにするのは難しいことから、こういった2段階の選抜で特色を見ていくというのもありだと思ふ。千葉県内の私立高校が先進的なことをされていることも多々ある。私立高校のいい事例研究なども比較して見ていくといいのではないかな。
- ・郵送出願については、約9割の方が認めて欲しいという点については、やはり始める段階においては、いきなり変えることできないと感じていた。私たちもインターネット出願が始まる時に、様々な意見があり、印刷できない高校で紙代がかかるというような意見もあった。ただ、そういった意見も数年経つ中で、徐々に消えてきているので、郵送出願については、ある程度の年数を決めた上で、ソフトランディングで対応していくということも踏まえた形で考えていくべきである。
- ・16ページの7の2段階の選抜については、やはりよくわからない。最初の500点、135点、100点と決まっているところを、学校ごとに係数がある程度、幅を持って調整できるようなことを最初からやれば、1段階で済むのではないかな。そうすれば何度も選抜を繰り返すようなことは必要ないのではないかな。シミュレーションされていれば、おそらく、2段階目のやり方だけで結局はよかったという事実が出てくるのではないかな。
- ・本試験の期日で資料6ページの2について、2022年度の各県47都道府県で、2日間試験日を設けているのが21県、2023年度は1県減って20県。どこが2日から1日に変わったかという、23番の愛知県、3月7日と10日でやっていた。それが一挙に2月22日の1日に変わっている。半数以上の県と都道府県が1日で入試を実施している。首都圏で言うと、東京、埼玉、神奈川は1日で実施されている中、千葉は2日で頑張っているところを調べてみていくという表れであると感じる。しかし、1日で実施しているところがある中で、今のままでよいのかという懸念が少しだけある。
- ・1日実施の固定にするのはどうか。交通の便については、試験日だけバスの運行を依頼すればいいのではないかな。私自身、愛知県での受験は3月15日で固定あった。「目指せチャレンジ3.15」と、愛知県では当時から3月15日の特定日で、中学生はみんなそこに向けてやっていたこともある。固定が良いかについて、運営側の様々な事情があると思うが、課題があり、それを解決するのか、できないのかということところは、大胆に何かを変えるということをしないと、なかなか変えられないのではないかな。
- ・各高校から期待する生徒像、求める生徒像が示されているということで、そういう生徒が1人でも多く入学する、或いは入学させることができるような前向きな議論を、ぜひ今後も継続してほしい。今の入試制度の中で、子供たちに、私立も含めて多様な選択肢があるということで、子供たちは私立、公立ともたくさん、お世話になっている。
- ・志願者が目を輝かせ自ら出願に高校へ出向いていた形が、WEB出願に変わる流れはもう避けられない。少し寂しい。是非とも高等学校の方では、説明会等も含め、見学に訪れた、或いは質問に来た中学生に丁寧に対応していただきたい。
- ・多様性のある入試を行っていかないと学校経営も含めて成り立たなくなっていくのではないかなと感じたため、様々な工夫していかねばいけないであろうと思われる。